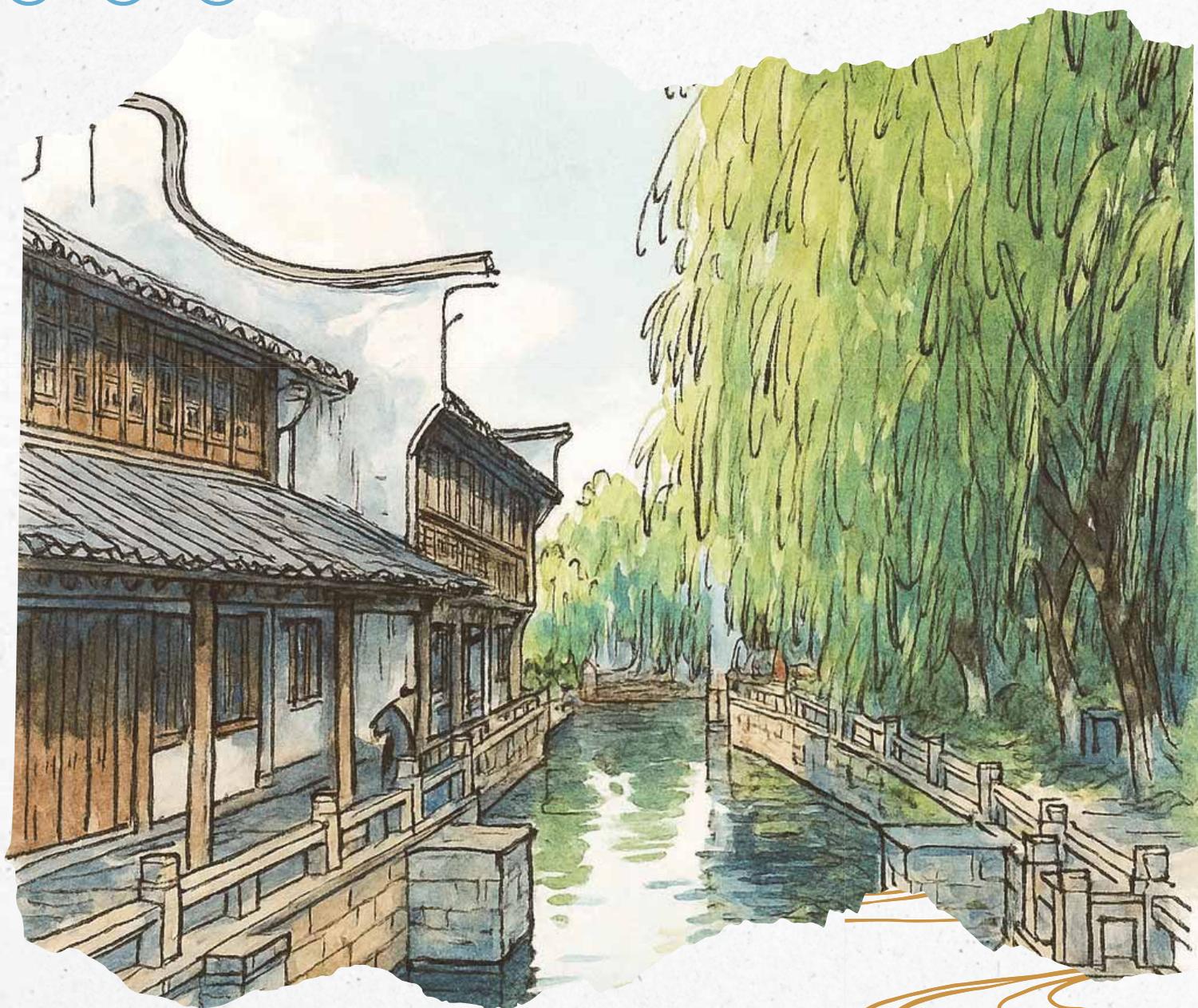


～静岡県と浙江省の友好・発展の架け橋に～

日中青年代表交流

Bridges of Friendship

中国・浙江省 2025



主催・実施 静岡県教育委員会 / 日中青年代表交流実行委員会

主催者挨拶

「相互信頼」の土台を築く

静岡県教育委員会 教育長 池上 重弘



日中青年代表交流は、平成21年に静岡県教育委員会と中国浙江省青年連合会との間で締結した「青年友好交流に関する協定書」に基づき、平成23年より毎年実施しており、両県省合わせて500人以上の青年が参加しています。

交流開始からの15年間、時代の変遷に伴う幾多の課題にも直面してまいりましたが、両国の青年や過去の参加者、そして関係各位の多大なる御協力に支えられ、今日まで歩みを進めることができております。特に、昨年度5年ぶりに対面での交流が再開できたことは、大変喜ばしいことです。この再開に御尽力いただいたすべての方々に、心より感謝申し上げます。

本交流は、経済、産業、教育、文化等さまざまな分野で活躍する両県省の青年同士が、互いの国を実際に訪問し、企業や学校視察、ペアワーク等の時間を共にするものです。

未来を担う青年同士の現地での交流は、【相互理解の深化】【価値観の認識】【視野の拡大】を実現し、情勢に左右されることなく、相互信頼という最も重要な土台を築き、維持していく源泉となります。本事業は、まさに未来のリーダーを育むための大変意義深い機会であると確信しております。

今後も、本交流事業が日中友好の確かな架け橋として継続し、発展していくことを期待しております。

結びに、本交流の実施にあたり、御尽力いただきました両国の実行委員会の皆様、青年たちの参加に御理解を賜りました関係者の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

実行委員会会長挨拶

絶やすな日中青年友好交流の火

会長 外山 敬三（静岡県日中友好協議会参与）



平成23年度から実施してきました日中青年代表交流事業は、新型コロナウイルスの感染の広がりにより中断を余儀なくされた時期もありましたが、令和6年に再開され、今年度も8月に、19名の青年代表と浙江省を訪問してきました。

参加した青年たちは、中国の方々の温かさや成長意欲に触れ、また経済発展の勢いを目の当たりにし、大いに刺激を受けるとともに、お互いの文化や日常を理解し、国を超えた友情を育みました。

帰国後、浙江省の青年代表を受け入れる準備を進めていましたが、日程等の調整がうまくつかず、訪日は時期未定の延期となり、青年代表の皆様には大変な心配と迷惑をかけることになってしまいました。

過去にも政府間の交流が滞った時期がありましたが、そのような時でも民間の交流だけは困難を乗り越え続け、取り巻く状況を変えていきました。

今こそ、青年代表の皆様と実行委員会や事務局が一丸となり、そして浙江省青年連合会と連携して静岡県と浙江省の青年交流の火を絶やすことがないよう、それぞれが出来ることから始め、交流の輪が広がっていくことを心より期待しています。

参加者代表挨拶

日中友好の輪拡大を願って

令和7年度代表 前島 和男



令和6年度の交流報告会に参加し、7年度の研修に思い切ってエントリーしました。

初訪中はまさに百聞は一見に如かずで、世界第2位の経済大国となった中国の今を目にし、その基となっている教育や文化について知れ、中国への認識を改めました。外から日本を見る視点も養えました。

行く先々での青年との交流や視察先での質問など、一人の人間として自らアクションを起こし、心を通わせられたことも大きな自信となりました。

行動を共にした仲間とも絆を深め、帰国後は昨年の交流参加者とも繋がりました。すべての出会いに感謝し、つながりを大切に、日中友好の輪拡大を願っていきたいと思います。

貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

浙江省青年連合会挨拶

末永く交流が続くように

浙江省青年連合会 主席 李蓮萍



私は、浙江省青年連合会の1400万人の浙江省青年の代表として、静岡県青年の御来訪に対して心から歓迎の意を込めて、挨拶を述べさせていただきます。

静岡県日中青年交流代表団の皆様、長旅お疲れ様でした。この場を借りて、外山団長および事務局の皆さん、静岡県青年の皆さん、浙江省へようこそいらっしゃいました。熱烈歓迎いたします。また、本日出席いただいている浙江省外事弁公室の皆様においては、長年にわたり浙江省と静岡県の友好推進に力を注いでいただき、この場を借りてお礼を申し上げます。

中国には多くの省が存在しますが、その中でも浙江省は経済を強みとする省です。また、人口も多く、教育力も非常に高いと評される地域です。人工 AI、バイオテクノロジーなど技術が飛躍的に進んでいます。日本は、世界的にも有名な先進国で、我々も学ぶところが多いです。教育、科学、イノベーションにおいては中国より強い部分がたくさんあります。中国の若者も日本から多くのことを学ぶべきと感じています。

本日の視察に同行し、皆さんが真剣にノートをとり、話を聞く姿を見て、大変勉強熱心だととても感心しました。浙江省と静岡県は多くの分野で友好・協力の契約を締結しています。これらを通じて、両県省ともに成長し、末永く交流が続くよう祈っています。

最後に、日本・静岡県青年代表団の方々が、浙江省滞在中、楽しく過ごされ、また、健康であることを祈念して、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

[令和7年8月12日開催 浙江省交流 歓迎夕食会にて]



— CONTENTS —



I 令和7年度事業概要	3
II セミナー	5
III 浙江省交流	7



IV 広がる交流の輪	15
V 日中交流架け橋プラン	17
VI 新聞記事	18

朝の西湖

I 令和7年度事業概要

1 目的

静岡県内の経済、産業、教育、行政など各分野の青年代表が、中国浙江省の青年との交流を通して、相互理解と信頼関係を深め、人脈形成や情報交換等を行い、参加後、継続的に日中交流に関わることにより、発展的な協力関係を築く。

2 概要

- (1) 参加条件 中国との交流に関心があり、日中の友好交流の促進や相互発展への取組に参加する意志のある県内の20代から40代までの青年。
- (2) 参加者数 静岡県青年 19人
 浙江省青年 浙江省交流 18人 ※静岡県交流は延期

[内訳] 性別 (人)

静岡県青年		浙江省青年			
		浙江省交流		静岡県交流	
男	女	男	女	男	女
13	6	11	7	-	-

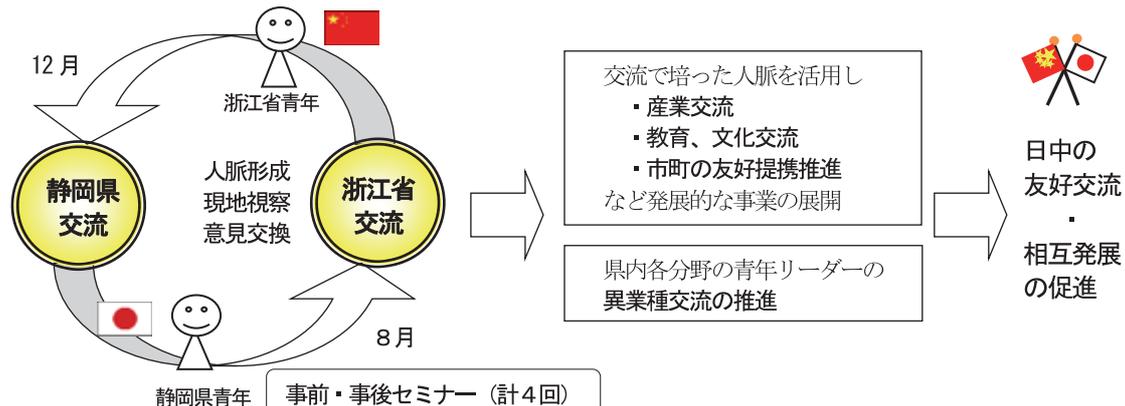
所属先 (人)

静岡県青年		浙江省青年	
		浙江省交流	静岡県交流
企業	6	12	-
団体	2	2	-
教育	8	1	-
行政	1	2	-
その他	2	1	-

(3) 内容・日程

交流・セミナー	開催月日	会場	内容
第1回セミナー	6/14 (土)	県庁	開講式、オリエンテーション、中国事情講座 中国語講座等
第2回セミナー	7/27 (日)	県庁	中国事情講座、浙江省交流ガイダンス等
浙江省交流	8/11 (月) ~17 (日) 〔6泊7日〕	中国 浙江省 上海市	【静岡県青年 ⇒ 浙江省、上海市】 歓迎夕食会、現地学校視察、青年交流 現地企業等視察、杭州・上海市内視察等
第3回セミナー	10/4 (土)	県庁	浙江省交流報告会、グループワーク等
静岡県交流	浙江省側の事情により延期		
第4回セミナー	1/31 (土)	グランディ エールブケ トーカイ	交流報告会、閉講式

- (4) 参加費 23万円 (ただし、セミナー・交流参加に伴う集合場所までの交通費、食費、パスポート取得料、海外旅行保険料他、個人的経費は含まない)
- (5) その他 本交流に参加した公立学校教員は、中堅教諭等資質向上研修の「社会体験研修」を実施したものとみなされる。



3 参加者および事業関係者

(1) 静岡県参加青年

番号	氏名	所属先（申込時）	番号	氏名	所属先（申込時）
1	中村 和喜	株式会社オープンスマイル	11	阿南 千華	島田市立初倉小学校
2	武田 義隆	常葉大学	12	浅羽 崇斗	株式会社サンワネット
3	泉 百葉	静岡県立浜松城北工業高等学校	13	長津 尚吾	株式会社天野回漕店
4	松山 陸	静岡県立浜松湖南高等学校	14	小田 純	静岡県立静岡北特別支援学校南の丘分校
5	久保田晋悟	静岡県信用保証協会	15	山口 瑠菜	清和海運株式会社
6	前島 和男	創価学会静岡県事務局	16	山本 陸	静岡県志太榛原農林事務所
7	伴野 弘大	静岡市立由比小学校	17	望月 涼太	鈴与株式会社
8	山本 宏樹	株式会社ハマ IN 自動車学校	18	古杉 香	藤枝市立朝比奈第一小学校
9	桐山 愛生	日本大学	19	岡端さくら	静岡市立清水辻小学校
10	堀 有佑	掛川市立中央小学校			

(2) 実行委員会

役職	氏名	所属等（事業実施時）
会長（静岡県青年交流代表団団長）	外山 敬三	静岡県日中友好協議会 参与
副会長（静岡県青年交流代表団副団長）	小竹 啓功	静岡県教育委員会社会教育課長
委員	古杉 香	藤枝市立朝比奈第一小学校教諭
	小関 克也	静岡県企画部地域外交課長
	杉山 和志	静岡県立川根高等学校教諭
	鈴木久美子	静岡県立三島南高等学校長
	成岡 敬悟	一般社団法人静岡青年会議所筆頭副理事長
	平谷 均	磐田商工会議所 専務理事
	水野 彰紀	静岡県立中央図書館教育主査
監事	金子 哲也	株式会社静岡教弘
	中村かおり	一般財団法人静岡県教職員互助組合高校支部

(3) 浙江省参加青年（浙江省交流）【杭州市】

【紹興市】

番号	氏名	所属等	番号	氏名	所属等
1	沈佳穎	浙江六和弁護士事務所 管理パートナー	1	余高明	浙江星脉法律事務所 所長
2	张伟峰	杭州青少年活動センター スポーツ部部长	2	王 澜	紹興瀾山建築設計株式会社 取締役会長
3	朱 暉	浙江築道法律事務所 副主任	3	钟晓蕾	紹興市献血センター 支部委員兼副センター長
4	黄 进	浙江大学コンピュータ科学技術学院 研究員	4	韩舒婷	紹興市社会团体總會 事務総長
5	许 洁	杭州盼雲クロスボーダー科技有限公司 創業者	5	汪圣琦	紹興市蒂舞ダンス研修有限公司 責任者
6	王介明	建徳市切り紙技術 無形文化遺産代表継承者	6	高飞錦	浙江越光法律事務所 パートナー弁護士
7	宋 良	杭州市蕭山区青禾公益サービスセンター 責任者	7	陈 灝	紹興市公用事業グループ株式会社 技術部 社員
8	周佳駿	杭州市麦庭文化発展有限公司 総経理	8	徐洋超	国網浙江省電力有限公司紹興電力会社 運検部 技術専任
9	邵泽城	杭州市臨平職業高级中学 講師			
10	祝爱霞	杭州瑞有茶社 マネージャー			

(4) 中国浙江省青年連合会役員

役職	氏名
主席	李蓮萍
秘書長	刑 博
副秘書長	李晓峰
	傅 珺
秘書処職員	张胜磊

II セミナー

第1回 セミナー 開講式

- 1 開講式
・日中青年代表交流実行委員会会長挨拶 外山 敬三 会長
・実行委員の紹介とメッセージ
- 2 オリエンテーション
事業説明／過去参加者による体験談
- 3 グループワーク1 仲間づくり
アイスブレイク／自己紹介／役割決定
- 4 講義「日常化する中国の存在 友好は易く、理解は難し」
講師 高林 久記 氏
(静岡県日中友好協議会常務理事兼事務局長)
- 5 中国語講座
講師 王春華 氏



第2回 セミナー

- 1 浙江省交流ガイダンス
交流日程、準備等の確認／渡航ガイダンス
- 2 講義「中国と日本の生活の違いについて」
講師 孫江明 氏
(株式会社 大鉄アドバンス)
- 3 グループワーク2 浙江省交流に向けて
上海グループワーキング計画・作成
- 4 中国人留学生との交流
中国語練習／意見交換会

第3回 セミナー

1 浙江省交流報告会

- ・浙江省交流の振り返り（事務局より）
- ・上海グループワーキング報告（グループごと）
- ・グループ別協議（浙江省交流後の意識や行動の変化）

2 静岡県交流計画

- ・概要説明
- ・グループ別協議（交流内容検討）



第4回 セミナー 閉講式

1 交流報告会

2 意見交換会

3 閉講式

- ・日中青年代表交流実行委員会会長挨拶 外山 敬三 会長
- ・実行委員からのメッセージ



III 浙江省交流

新たな友との出会い

上海浦東国際空港へ



DAY 1

富士山静岡空港から

目的

静岡県内の各分野の青年代表が、中国浙江省の青年代表や両県省の交流関係者、上海駐在邦人等との交流を通して、相互理解と信頼関係を深め、人脈形成や情報交換等を行うとともに、中国の経済、社会、文化等について理解を深める。

1 出発式（富士山静岡空港）

2 嘉興市サービスエリア



富士山静岡空港にて出発式を行いました。参加者代表からは、これから始まる交流への期待を込めた挨拶がありました。約3時間後には上海浦東国際空港へ到着。杭州市へ向かう道中のSAでは、中国で初めての食事をしました。

3 湯氏物流会社／現地企業視察

浙江省内での迅速かつ効率的なトラック物流サービスを提供している設立 30 年の会社です。サービスの効率化を図るため、自社開発トラックやTMS（物流管理システム）を活用しハイテク企業として競争の激しい中国の物流社会をリードしています。

湯氏代表には、参加者の質問一つ一つに丁寧に回答いただき、大変充実した研修となりました。



DAY 2

4 新華三集団／現地企業視察

ネットワーク接続機器を取り扱い、16年間国内シェア第1位の企業です。ICT分野でも実績を有しており、教育、メディア、医療関係などさまざまな分野で製品を開発しています。ショールームでは、日本では見られない最先端技術を目の当たりにし、圧倒されました。



< 日程表 >

月 日		時 間	行 程	宿 泊
DAY 1	8/11 (月)	11:30 13:40 16:10	富士山静岡空港 集合・ 出発式 富士山静岡空港 出発 (MU2020 便) 上海浦東国際空港 到着 ※時間は現地時間	杭州維景国際 大酒店 (杭州市)
DAY 2	8/12 (火)	午前 午後	現地企業研修 / 湯氏物流会社、新華三集団 現地企業・学校研修 / 零跑汽車、崇文理想国幼兒園 歓迎夕食会 (浙江省青年連合会)	
DAY 3	8/13 (水)	午前 午後	杭州市内視察 / 杭州都市企画展覧館、杭州市青少年宮 杭州市内視察 / 中国茶葉博物館 杭州市青年との交流 / 意見交換会 (中国茶葉博物館にて) 夕食会 (杭州市青年)・ 西湖遊覧	
DAY 4	8/14 (木)	午前 午後	現地学校研修 / 紹興魯迅小学校 紹興市内視察 / 中国黄酒博物館 紹興市青年との交流 / 魯迅故里散策 (グループワーク) 夕食会 (紹興市青年)	紹興新青年咸亨 酒店 (紹興市)
DAY 5	8/15 (金)	午前 午後	現地企業視察 / 乍浦港 現地企業視察・交流 / 凱実生物科技公司 嘉興市内視察 / 月河歴史街 (粽子づくり) 歓迎夕食会 (嘉興市青年連合会)	嘉興戴夢得開元名 都大酒店 (嘉興市)
DAY 6	8/16 (土)	終日	上海グループワーキング	上海吉臣維景 大酒店 (上海市)
DAY 7	8/17 (日)	9:05 13:20	上海浦東国際空港 出発 (MU2019 便) 富士山静岡空港 到着	



5 零跑汽車 / 現地企業視察

2015年に次世代スマートEVブランドとして設立しました。若者に焦点を当てたデザインが特徴で120~320万円程度で購入でき、1回の充電で400~600km走行できます。

現在中国で走行している自動車の約4割がEV自動車と言われており普及率の高さを実感しました。



6 崇文理想国幼兒園／現地学校視察

杭州市内でも歴史の長い私立幼兒園です。園内には、アスレチックや心躍るような遊具が至る所に設置され、ヤギやアルパカなどの動物の飼育や果樹園もあり、園児がのびのびと心と体を鍛え成長することのできる環境が整えられていました。

意見交換では、それぞれに質問の機会を与えていただき、大変充実した視察となりました。



当園の周園長は、日本の幼児教育に大変関心を持ち、毎年のように日本を訪れ、幼稚園視察を行っています。



7 歓迎夕食会

浙江省青年連合会主催の歓迎夕食会に出席しました。李蓮萍主席には、この日は終日静岡県青年の活動に同行いただきました。挨拶では、互いの国の良いところや学ぶべきところをお話いただき、温かく歓迎してくださいました。



DAY 3

8 杭州都市企画展覽館

／杭州市内視察

「杭州の誕生」「現在の杭州」「これからの杭州」について6つの展示エリアで最先端のマルチメディア手段を活用し表現していました。中国人が自分の故郷に対する深い愛情と高い誇りを持っていることや、これらをこどもたちや地域住民、多くの人々に伝えようとする努力を強く感じました。



9 杭州市青少年宮（Do 都城）／杭州市内視察



12歳までが利用できる社会体験施設です。日本で言う「キッズニア」のような施設で、さまざまな職業体験ブースが設置され、1時間30元（約600円）で利用できます。お弁当を持って一日利用することもおり、こどもたちの居場所としての役割も担う教育施設の存在に驚きました。

10 中国茶葉博物館／杭州市内視察



中国茶葉博物館は中国で唯一、茶と茶文化をテーマにした博物館です。静岡県の「ふじのくに茶の都ミュージアム」と関連した展示も多く、静岡県の茶のルーツが浙江省にあることを感じさせる博物館でした。

11 杭州市青年との交流

中国茶葉博物館内の交流スペースで、杭州市青年と交流を行いました。杭州市青年は、弁護士や切り紙師、農業経営者、スポーツインストラクター、教職員などさまざまな分野で活躍する青年たちです。静岡県青年は全員が中国語での自己紹介を行い、その後、英語や翻訳機を使いながら、職業や趣味、自国の文化についてさまざまに意見交換を行いました。



茶家の青年のお点前披露、紙切り師青年のパフォーマンスで交流の場を盛り上げてくれました！



夕食会

中国茶葉博物館から夕食会場へ移動し、夕食会を行いました。円卓を囲み食事をともにすることでさらに親睦が深まりました。



中国伝統菓子
煎堆皇
(チントイウォン)



西湖遊覧

夕食後は、西湖へ移動し、遊覧船に乗り西湖の美しい夜景を眺めました。今日一日の活動で青年同士の絆は一気に強まりました。



12 紹興魯迅小学校／現地学校見学

DAY 4



紹興魯迅小学校は、魯迅の教育理念と文化的遺産が継承された公立小学校です。校内には、魯迅に関する展示物や銅像が建てられ、漢方薬を学ぶための百草園も見ることができました。授業時間や時数、設定科目、教室の雰囲気など日本の小学校と共通する部分も多くありました。中国では教員採用の競争率が高く、また、採用後もキャリアや人事評価によってランク付けがあるとのことでした。



13 中国黄酒博物館／紹興市内視察

紹興酒（黄酒）は、世界三大古酒と言われるほど歴史は古く、当館は中国黄酒 5,000 年の歴史を復元模型や実物展示、史料、紹興酒の製造行程などを再現・解説しています。中国の歴史とともに解説いただくことで、紹興酒が中国の歴史と同様に古くから作られ、人々の祝いの場に欠かすことのできない大切な酒として愛飲されてきたことを深く理解することができました。

紹興酒の甕に色彩豊かな花を彫って装飾する伝統工芸士（花彫士）の実演も見ることができました。



14 紹興市青年との交流

魯迅故里敷地内を紹興市青年とグループを組んで散策しました。中国を代表する歴史的な人物だけあり敷地内は多くの観光客でにぎわっていました。紹興市青年が大変気さくで親切であったため、どのグループも打ち解けた様子で楽しい時間を過ごすことができました。



魯迅故里

中国で最も完璧に保存された文豪故居。魯迅故居、少年時代の住居、百草園などが復元されています。



夕食会

夕食会では、両青年の歌やダンスの披露など大変盛り上がり、思い出深い時間となりました。



DAY 5

15 乍浦港／現地企業視察

乍浦港は、嘉興港の一つで化学製品や石炭・石油を扱い、主に近距離エリアの運送を行っています。海と運河が連結しており「船(海)→船(運河)」へと、トラックに積み替える必要のない運送が可能であることが特徴です。広大な港内に積み重ねられた多数のコンテナや隊列を作って走行するトラック、巨大クレーンなどを目の当たりにし、身を乗り出して写真を撮る青年たちの姿が印象的でした。



昨年に引き続き、嘉興市青年連合会主席から、心温まるおもてなしを受けました。また、昨年12月に主席が浙江友好青年団として静岡県に訪問した際の静岡県の印象についても伺うこともできました。



16 嘉興凱実生物科技有限公司／現地企業視察

医療機器や医療消耗品の製造を行う会社です。特に血液分析装置は、血液試薬と混合して分析すればほぼすべての病気が診断できるとのことです。従業員の6割は35歳以下の若手社員で構成され、社内の雰囲気も活気にあふれていました。



企業職員との交流

10人の若手社員が参加してくれ、グループごと意見交換を行いました。日本語が堪能な社員もおり、とても親日的な雰囲気を感じました。青年たちは互いの仕事内容や勤務体制についてなど深いところまで意見交換し、大変密度の濃い時間を過ごしました。



17 粽子づくり体験／嘉興市内視察

嘉興市は粽子で有名な地域です。それぞれ用意された笹の葉を折り曲げ、もち米を包み、ひもを巻くという手順で粽子を作りました。想像しているよりも包み方が難しく苦戦しました。誰の粽子が一番美しいかコンテストも行い大変盛り上がりしました。体験活動や共同作業がより親睦を深めることを実感する時間となりました。



18 嘉興市青年連合会との夕食会



19 上海グループワーキング

DAY 6

Group A



グループごとにテーマ、コースを設定して上海市内を散策しました。

★豫園→南京東路→ナイトクルーズ

QR決済が便利です。お店はきらびやかでLED照明が贅沢につかわれており、まさに世界の先を行く街でした！

Group B



上海が「今と昔」を巧みに織り交ぜた都市である事を強く感じました！協力し合いながらコースを巡り、メンバーの様々な一面を見る事ができ、より良い関係を築く事ができました。

★田子坊→新天地→南京東路→外灘→ナイトクルーズ→豫園



Group C

★上海博物館→南京東路・西路→浦東→豫園→外灘→ナイトクルーズ



上海市内の歴史的なエリアと現代的なエリアの両方を散策。上海は「中国伝統」「西洋近代」「中国現代」の文化が地理的・視覚的に共存しておりダイナミックな歴史を体感できる都市であると学びました。



Group D

★新天地→豫園→ナイトクルーズ→上海タワー



地下鉄とタクシーの両方を使って移動したり、現地の方に道を聞いたりすることで、自ら調べ考え、行動する楽しさを実感し、異文化に触れる貴重な経験となりました。



上海浦東国際空港から



富士山静岡空港へ



交流参加者の声（浙江省交流事後アンケートより）

<中国について感じたこと>

- 自分の持つ中国のイメージがとても変容した。訪中前は、メディアを通して中国の様子を把握するしかなく、マイナスなイメージを抱いていたが、現地で出会った方々の温かいおもてなしのおかげで、国として捉えていた中国がグッと身近な場所になった。
- 企業や教育の現場で IT・AI の技術が活用されており、効率化が図られていた。また、国ベースでも組織ベースでも「仕組みとルール」が重んじられていた。
- 視察や現地の青年との交流、買い物やタクシーでの移動などを通して、未来志向で友好を深めていける可能性を大きく感じた。
- 港や自動車企業を視察した際、中国の規模の大きさや革新スピードの速さを痛感した。
- 中国企業では、成功の見込みが不確実な技術や仕組みに対しても積極的に設備投資を行い、挑戦的に取り組む姿勢が見られた。リスクを恐れず挑戦する姿勢は、今後の業務改善や新規施策の検討において参考になると感じた。
- 中国におけるお茶文化に触れる中で、生活に根差した伝統や文化の持つ力を実感した。

<交流で得られたこと>

- 「リアルな中国」に触れることができたことが非常に大きな経験だった。現地の青年たちと仕事や子どもの教育について語り合う中で、彼らが持つ仕事への熱意や、子どもや家族や友人を大切にしている心に触れることができた。
- 中国の物流システムや AI の活用事例を直接学ぶことができた。効率化やコスト削減に役立つ具体的な取り組みを確認できた。
- 学校訪問では授業の種類やその進め方、教師と生徒の関わり方を学び、日本との共通点や相違点を理解するとともに、教育における多様な実践のあり方を考える機会となった。
- さまざまな産業の企業視察を通して、地域の特色を生かした事業展開や最新技術の導入など、中国の経済や社会の活力に触れ、産業と教育・文化が密接に関わっていることを学んだ。
- 現地の様々な背景を持つ青年と直接交流し、互いの考えや経験を語り合う中で、異なる文化や価値観を尊重し合う姿勢の大切さを実感し、自分自身の視野を広げる貴重な体験となった。
- 自分の業務とリンクする部分で学びを多く得られたのがよかった。特に零跑自動車視察や杭州市青年の EV 車に乗せてもらったことで得られた中国 EV の知見や、エンターテインメントコンテンツとしての自動車について学ぶことができた。
- 現地青年たちが日本の技術や文化から学ぼうとしていることがわかった。また、彼らの子どもの教育についての悩みなどを聞いたことも印象的だった。同じ子を持つ親としての共感を覚えた。
- 現地ではなるべく中国語を使うように心がけた。少しずつ使える中国語が増えていくのを実感できた。
- 静岡県青年との繋がりが宝物になった。バスの中での会話やグループワークではお互いの職種について話したり、雑談をしたりする中で親睦を深め、交流することができた。

IV 広がる交流の輪

1 既参加者の事後活動状況

※既参加者を対象に実施した「現況調査」より（令和7年度実施）

① 日中交流架け橋プランの取組



主な取組事例

- ・体験を教育現場で活用・発信
- ・イベントや講座への積極的参加
- ・当事業の実行委員として活動
- ・中国語観光ガイドを目指す など

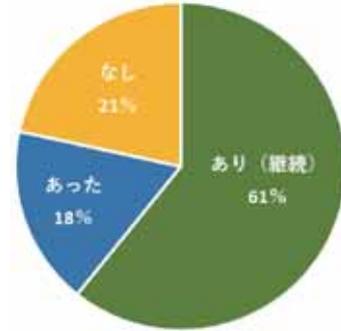
② 浙江省青年との交流



主な取組事例

- ・中国に渡航し、パートナーと再会
- ・パートナーと家族ぐるみで相互渡航
- ・WeChat を通じて交流
- ・日本への留学に協力し実現 など

③ 参加者同士の交流



主な取組事例

- ・SNS やメール等で情報共有・交流
- ・近況報告を兼ねた食事会や同期会
- ・仕事の依頼や協力
- ・旅行やイベントへ一緒に参加 など

④ 交流が自身に与えた影響

- ・中国語の勉強を続け台湾人コミュニティとの繋がりができ、それを通して出会った方と付き合いが続いている。
- ・中国語は引き続き勉強しつつ、プライベートでも中国を訪れている。今は転職し、日本語学校で働き、中国の学生の生活サポートなども行っている。
- ・中国をその後2回訪れた。中国と欧米のものの見方を見比べるようになった。
- ・ICTの最先端の状況に注目するようになった。
- ・国際協力に関心をもち、JICA 青年海外協力隊へ参加した。
- ・日本側の参加青年や事務局職員の方との交流が続いている。また、過去参加者及び実行委員として日中青年代表交流に関わることができ、視野が広がった。
- ・初めてのこと、知らないことへの抵抗感が減り色々なことに進んでチャレンジしてみようと前向きな気持ち、マインドを持つことが出来た。
- ・表面的な情報に流されることなく、冷静に情報を見ることができている。業務上、中華圏の方とお話する時には、親近感を持って対話できている。 など

2 既参加者の事後活動報告

“つながる”ことの本当の意味 — 日中青年交流から教育実践へ

石川 真由美さん（静岡県立静岡城北高等学校／平成24年度参加）

グローバル化・ICT化が急速に進む現代社会では、ワンクリックで世界中の情報を瞬時に得ることができる。しかし日中青年代表交流事業での訪中を通し、実際に現地を訪れ、人と直接関わることで初めて見えてくる世界が確かに存在することを改めて実感した。ホームステイや学校視察で触れた人々の優しさと温かさは、国や立場の違いを越えて相手を理解しようとする姿勢の大切さを教えてくれた。また、アリババをはじめとする企業視察からは、中国社会を支える巨大なエネルギーと挑戦する力を肌で感じた。この経験を機に、訪中直後は中等部での台湾研修旅行に向けて中国の歴史・文化・言語を学ぶ講座を企画・実施し、生徒の多角的な視野を育む教育実践に取り組んだ。



現在はグローバルクラスの担任として、英語にとどまらず、中国語を選択する生徒の興味や関心を広げ、異文化理解やスピーチコンテストへの挑戦を支援し、生徒が世界と主体的につながろうとする姿勢を育てている。本事業で得た学びを、今後も日中交流と次世代の育成に還元し続けていきたい。

10年越しの架け橋

武川 弘樹さん（株式会社京進ランゲージアカデミー／平成27年度参加）

私が本事業に参加したのは2015年。気づけば10年が経ったことに、我ながら驚きます。現地では多くの方々に温かく迎えていただき、その笑顔や言葉はいまでも鮮明に心に残っています。民間交流を途切れさせず、日中の橋渡しを続けることの大切さを、あの経験が教えてくれました。

昨年12月、久しぶりに中国を訪れ、学生時代にホームステイしたご家族を訪問しました。今回は家族も同行し、関係が難しい時期だからこそ、実際に見て、話して、肌で感じてほしいと思ったからです。

現在は日本語学校で留学生募集や生活支援に携わり、中国からの学生とも向き合っています。青年代表交流としての経験が、今の仕事、そして周囲へ広げたい思いへと確かに繋がっています。



交流で得たつながりと私の現在

櫻井 亜矢子さん（うな専、マキノハララボ／令和5年度参加）



令和5年の代表交流で出会った仲間とは、現在も時々連絡を取り合い、互いの近況を話したり、励まし合いながら交流を続けています。このつながりは、私にとって中国語学習や様々な活動を続ける大きな原動力となっています。

現在は日本語学校に勤務しており、中国人の児童はいないものの、外国にルーツを持つ子どもたちと関わる中で、言葉や文化の違いを越えて心を通わせることの大切さを実感しています。この経験は、多文化理解の姿勢を育てる貴重な学びとなっています。

また、中国語の勉強も継続しており、将来的には通訳案内士資格を取得して訪日観光客を案内できるガイドを目指しています。旅行が趣味で、時間があれば中国にも積極的に足を運び、現地の人々とのふれあいを通じて文化への理解を深めてきました。

語学学習や職場での経験、代表交流で得たつながりを生かし、日中の相互理解に少しでも貢献できるよう、これからも自分にできる形で歩み続けていきたいと考えています。

日中交流で生まれたつながりと絆

水野 彰紀さん（静岡県立中央図書館／令和6年度参加）

浙江省交流は、現地での温かい交流を通して中国に対する認識を大きく変える経験となりました。特に彼らの優しさを感じたのは、帰国後、仲間が買ったお土産が空だったことが分かった時です。困りながらも私がパートナーに事情を伝えると、彼は自分のことのように受け止め、すぐに店と交渉し再送手続きをしてくれました。迅速で誠実な対応に驚くと同時に、相手を思いやる気持ちの深さを実感し、彼への信頼は一層強まりました。彼とは今でも家族の話や互いの国の教育について意見交換を行うなど交流を続けており、再会も約束しています。

また、参加者同士のつながりも大切にしています。同じ班の仲間とは定期的に食事会を開き、県外に転居した一人も毎回オンラインで参加するなど関係を継続しています。さらに今年度と昨年度参加者の交流会を企画・開催しました。参加者同士が経験を共有し、世代を超えてつながることで、個人の体験にとどまらず、より大きな力を生み出せると考えています。今後も縦と横のつながりを重ね、本交流の価値を継承・発展させていきたいと考えています。



V 日中交流架け橋プラン

－ 終わりではなく、始まり －

中村 和喜	現地で学んだことを、自社の事業や組織に合わせて翻訳し活用する。
武田 義隆	<ul style="list-style-type: none"> ・交流で築いた関係が途切れないよう、探究心を忘れず各種事業に積極的に関わっていく。 ・HSK 試験5級に合格する。
泉 百葉	<ul style="list-style-type: none"> ・この経験を多くの人に伝える。 ・中国への渡航を計画する。 ・中国語の学習を継続する。
松山 陸	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友人を連れて、中国を再訪する。 ・生徒が中国と交流できる機会を設定し、交流・友好のためのきっかけをつくる。 ・自身が経験した現地の現状や人々の文化を踏まえて授業を構成する。
久保田 晋悟	「現場で得たリアルを伝えていく」－中国に対する興味を持ち続け、継続的な学びの姿勢を持つ－
前島 和男	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の日中青年代表交流に永続的にメンバーを送り出す。 ・2027年の夏までに家族での上海旅行を実現する。 ・古き長き日中の歴史を学び、未来志向で、文化交流を推進する。
伴野 弘大	中国の学校との交流を積極的に企画し、児童に外国文化交流の機会をつくる。
山本 宏樹	教習所や日本の道路交通体験を通して、日本でも自国でも安全運転のできる外国人を増やす。
桐山 愛生	中国語学習の継続、中国に訪れた経験を活かし接客をする。
堀 有佑	教育現場での日中比較学習、地域文化の継承、人と人をつなぐ学びの場づくりを通して、日中の架け橋となる活動を継続していく。
阿南 千華	相互の文化理解と尊重する視点を大切に、中国や他国の実際の様子を広く発信していく。
浅羽 崇斗	自身が直接実感した中国を社内や私生活で発信していく。
長津 尚吾	3年以内に中国の方と翻訳機無しで日常会話ができるようになる。
小田 純	<ul style="list-style-type: none"> ・交流で得た学びを現所属で1回以上共有し、中国への理解を深める機会をつくる。 ・人と人とのつながりを基盤に、継続的な日中交流を育てていく。
山口 瑠菜	<ul style="list-style-type: none"> ・《継続》中国語学習と未来への架け橋 ・《強化》教育と対話で組織力向上 ・《挑戦》AI・デジタルツール導入による業務改善
山本 陸	令和10年3月31日までに、浙江省交流の詳細情報を電子掲示板に掲載する。
望月 涼太	<ul style="list-style-type: none"> ・中国との関わりを絶やさない。 ・中国語検定4級取得。
古杉 香	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の習得。 ・仕事に生かす。 ・出会ったかけがえのない仲間を大切にする。
岡端 さくら	交流した中国青年と WeChat で交流し続ける。



上海浦東国際空港

VI 新聞掲載記事

令和7年8月3日（日） 静岡新聞

県庁 訪中前に中国文化的理解促進 交流事業代表団がセミナー



県教育委員会はこのほど、友好提携を結ぶ本県と中国浙江省の交流事業「日中青年代表交流」のセミナーを県庁で開き、訪中を控えた本県代表団が中国文化に理解を深めた。

県内企業や教育機関に所属する20～40代の23人で行く本県代表団は、留学生

と中国語での会話を練習し、同省と上海の歴史や名所を予習した。講師を務めた静岡大人文社会科学部の王瑞希さん(19)は明代につくられた庭園の豫園(よえん)や高層ビルの上海タワーを例示。「上海は歴史と現代の結びつきを感じられる都市」と解説し

訪中する団体職員の久保田晋悟さん(43)は「インターネットで何でも調べられる時代だが、現地での体験を通して文化や人々の考え方を学びたい」と意気込みを語った。

交流事業は11回目。今年の本県代表団は11～17日に、現地でデジタルサービス企業や自動車メーカーを訪問。情報交換や人脈形成に取り組み、相互の友好と発展につなげる。

県庁
留学生(左)から中国文化を学んだ本県代表団

令和8年2月1日（日） 静岡新聞

中国浙江省視察 交流の成果語る

県事業静岡で報告会

本県と中国浙江省の青年が相互訪問する日中青年代表団

訪中の成果を発表した報告会 静岡市葵区



表交流(県教委、同実行委主催)の報告会が31日、静岡市葵区で開かれた。中国を訪れた参加者が交流の成果などを報告した。

交流事業には、県内の20～40代の会社員や教員ら19人が参加し、昨年8月に6泊7日の日程で浙江省と上海市に足を運び、現地の教育機関や企業などを視察した。参加者は「国土が広大なため、国内でも地域ごとに独自の文化が発展している」

「教育方法のデジタル化が進んでいた」「テクノロジーの進化や普及の過程を垣間見ることができた」など、訪問を通じて得た自身の見解や学びを一人ずつ発表した。

交流は2011年度から行われていて、県教委によると、これまでに計500人ほどが友好を深めている。

この記事は、静岡新聞社の承諾を得て転載しています。



日中青年代表交流

令和8年3月

編集発行 / 日中青年代表交流実行委員会
静岡県教育委員会社会教育課
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
電話 054-221-3305・3312
E-mail kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

表紙デザイン / 泉 百葉（令和7年度参加者）